

リスク認知バイアスをターゲットとした 食のリスクコミュニケーション手法の開発ならびに効果検証 Development of Smart Risk Communication Targeting the Risk Perception Bias

○山崎毅*, 大瀧直子*, 富岡伸一**, 広田鉄磨***, 山口治子****

Takeshi Yamasaki, Naoko Ohtaki-Shimauchi, Shin-ichi Tomioka, Tetsuma Hirota, Haruko Yamaguchi

Abstract. Risk perception bias on the food hazards are often generated by consumers even when experts of food safety evaluated as safe. It is also possible that it makes other major risk to the society. In this study, we aimed to verify the effect of smart risk communication method targeting the risk perception bias, particularly “confirmation bias” on food additives. We performed the internet questionnaire survey to 100 female consumers who were sensitive to possible health risk of food additives. Although there was certain limitation due to internet communication, the health concerns of food additive were corrected up to approximately 24% to 39% of respondents by the smart risk communication targeting “confirmation bias”.

Key Words: risk perception bias, food safety, food additive, smart risk communication

1. 序論および方法

食品安全の専門家が人への健康リスクが十分小さく安全と評価しているにもかかわらず、一般消費者がリスクを過大に知覚／認識してしまうために社会に大きな影響を与えてしまう可能性がある。そこで、本研究では、このようなリスク認知バイアスをとりのぞくリスクコミュニケーション（リスコミ）手法を開発するため、食品添加物の健康リスクに過敏な消費者を対象として、インターネット調査を用いて、特に「確認バイアス」をとりのぞくリスコミ手法の効果を検証した。

インターネット調査は、楽天インサイト(株)の日本人モニターを利用し、「食品添加物は意識的に使わない」と回答のあった女性から100名をランダムに抽出した(30歳代39名/40歳代61名)。我々は「確認バイアス」をとりのぞくリスコミ手法として、「確認バイアス」の要因となっている信念や仮説にいたった原因に共感した設問を投げかけたうえで、学術的理解を与える科学的根拠をわかりやすく提供することが有効であると仮説をたてた。

2. 結果の概略

最初に食品添加物が健康によくないという「確認バイアス」にいたった原因の選択肢を6項目あげることで回答者に共感を促した。その結果、「過

去に発がんリスクが懸念され使用禁止になった食品添加物があるから」が53%、「無添加食品と添加物使用の加工食品を比較すると、天然の無添加食品の方が安全だから」が47%、「食べてはいけない・・・」など食品の裏事情に関する書籍や記事を読んで、やはり食品添加物は危険と感じたから」が42%などとなった。次に食品添加物の安全性に対する6項目の有識者の見解を提示し、理解度を確認したところ、すべての項目で46~66%が理解したとの回答があった。その上で今後、食品添加物が入った加工食品を選択するかどうかを聞いたところ、24%~39%が選択すると回答した。

筆者らは、「確認バイアスの原因に共感」⇒「確認バイアスのそれぞれの原因に関わる科学的根拠をわかりやすく説明」というリスコミ手法により、回答者自らの気づきを与え納得につながるものと考えた。今回インターネットでの無機的情報伝達に限界はあるものの、相当数の回答者で確認バイアスの補正が認められたことから、スマートリスコミ手法開発の起点となることが期待された。

*本発表は「食の安全と安心に係るリスクコミュニケーション研究タスクグループ」による発表です。

* NPO 法人食の安全と安心を科学する会 (NPO Science of Food Safety & Security) ,

** (株)津々浦々 (Tsutsura Inc.), *** 関西大学 (Kansai University), **** 愛知大学 (Aichi University)